

総合的な学習の時間

1 研究主題

発信する喜びを味わう総合的な学習の時間

～ 活動的な情報収集と ICT を活用した、探究的な学習の過程 ～



四街道市立みそら小学校

教諭 岩崎 祐太郎

1 研究主題

発信する喜びを味わう総合的な学習の時間

～ 活動的な情報収集と ICT を活用した、探究的な学習の過程 ～

千葉県四街道市立みそら小学校 教諭 岩崎 祐太郎

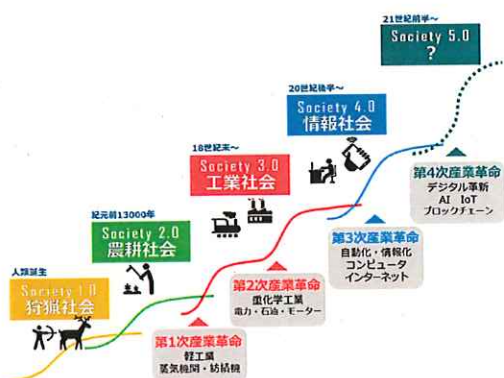
2 主題設定の理由

(1) 社会的背景

我が国が目指すべき未来社会の姿として、総合科学技術・イノベーション会議で策定された第5期科学技術基本計画の中で、society5.0が提唱された。Society5.0とは、狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として Society 5.0 が初めて提唱された。

Society 5.0 で実現する社会は、IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出す。また、人工知能（AI）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服される。社会の変革（イノベーション）を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望のもてる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会となる。

Society 5.0 で目指すべき人間中心の社会では、利便性や効率性の実現を主目的とするのではなく、デジタル技術・データを使いながら、人間が人ならではの多様な想像力や創造力を発揮して、社会を共に創造していく人材が今、正に求められていると言える。。



一般社団法人 日本経済団体連合会提言・報告書より

その一方で、社会や生活を大きく変えていくとの予想もなされている。情報化やグローバル化が進展する社会においては、多様な事象が複雑さを増し、変化の先行きを見通すことが一層難しくなると考えられており、児童が探究的に学ぶ総合的な学習の時間がますます重要となる。

予測困難な社会の変化に主体的に関わり、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である。

平成28年中央教育審議会によると、探究のプロセスの中でも「整理・分析」「まとめ・表現」に対する取組が十分ではないという課題があると述べられている。

探究のプロセスを意識した学習活動に取り組んでいる児童・生徒ほど全国学力・学習状況調査の分析等において、各教科の正答率が高い傾向にある。学習の姿勢の改善に大きく貢献するものとして高く評価されている。

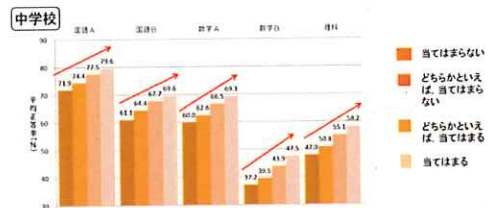
1(3) 総合的な学習の時間の成果と課題

- ◆ 成果としては、全国学力・学習状況調査の分析等において、総合的な学習の時間で探究のプロセスを意識した学習活動に取り組んでいる児童・生徒ほど各教科の正答率が高い傾向にあること、探究的な学習活動に取り組んでいる児童生徒の割合が増えていることなどが明らかになっている。また、総合的な学習の時間の役割はPISAにおける好成績につながったことのみならず、学習の姿勢の改善に大きく貢献するものとしてOECDをはじめ国際的に高く評価されている。
- ◆ その上で、今後更なる充実が期待されることとして、おおむね以下のような課題がある。
 - 一つ目は、総合的な学習の時間で育成する資質・能力についての視点である。総合的な学習の時間を通してどのような資質・能力を育成するのかということや、総合的な学習の時間と各教科等との関連を明らかにすることについては学校により差がある。これまで以上に総合的な学習の時間と各教科等の相互の関わりを意思しながら、学校全体で育てたい資質・能力に対応したカリキュラム・マネジメントが行われるようにすることが求められている。
 - 二つ目は、探究のプロセスに関する視点である。探究のプロセスの中でも「整理・分析」「まとめ・表現」に対する取組が十分ではないという課題がある。探究のプロセスを通じて一人一人の資質・能力の向上をより一層意識することが求められる。
 - 三つ目は、高等学校における総合的な学習の時間の更なる充実という視点である。地域の活性化につながるような事例が生まれている一方で、本来の趣旨を実現できていない学校もあり、小・中学校の取組の成果の上に高等学校にふさわしい実践が十分展開されているとは言えない状況にある。

【出典】総務省、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（抜粋）（平成28年中央教育審議会）

全国学力・学習状況調査の結果から①

生徒質問紙：「『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」



総合的な学習の時間において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる生徒ほど各教科の正答率が高い。
※小学校においても同様の結果。

平成27年度全国学力・学習状況調査より

(2) 地域・学校の実態

昭和55年4月1日に四街道町立旭小学校から分離独立。創立43年。昔からある住宅地であり、両親がみそら小学校出身という家庭も多い。地域の良い点として、自然が豊かで公園が多く、児童やお年寄りが集まる場に恵まれている。本校は、学区が狭いことで、地域の人が児童の名前を覚えてくれており、見守り隊をはじめとして、地域の自治体主催のサマースクールや陶芸教室など子どもたちのために一生懸命なアットホームな地域性である。課題としては、最寄りの駅が遠いことや新興住宅地や商業施設が集まる都市部とも離れており、交通の面や商業的な面において利便性が低い。

児童数123名、学級数8（うち特別支援級2）、全学年1クラスの単学級である。本校は、児童数が市内で最も少ない小規模校である。他学年と交流する機会も多く、児童同士の関わりも活発である。良い点として、縦割り活動が充実している。単学級という点を生かし、学級の実態に応じた対応が迅速に行える。教師側が自分のクラス以外の児童についてもよく理解しており、多くの目で児童を見ることが出来る。学習する際には、一人一役の活躍する場を与えることができる。課題としては、学校の児童数が減少しており、児童が多様な他者と関わる機会が少ないことである。また、総合的な学習の時間で行われるべき、探究的な学習の過程において、他者との協働や地域人材の活用といった手立てが充実していない。

(3)児童の実態

本校の児童の実態として、2つのことが挙げられる。1つ目は、単学級という学校事情から、学習の成果が学級内で完結してしまい、外へ発信する機会が少ない。そのため、児童も学級内では自信をもって発表できるが、全校が集まる場や外部の方が来たときには萎縮してしまう。2つ目は、スーパーやデパートなど買い物をするところが近くには無く、商店街だった通りはお店が閉まってしまいかつての様子を知らない子どもが多い。その結果、みそらには何もないという思いが児童にはある。そのため、地域の方から話を聞き、地域への想いを聞くことで、公園や自然、温水プールなど学区内で目に見える特色だけでなく、地域の人との繋がりや地域の歴史など目に見えない地域のよさにも気付いていない所にも気付かせていきたい。

令和3年度に実践した4年生は、積極的に発言する児童が多く、学習に意欲的に取り組む姿勢が見られる。しかし、全体での発表になると、下を向いてしまったり、声が小さくなったりと自信がもてない姿が見られる。そこで、学級の外に向けて自分の考えを述べる機会を作りたいと考え、本単元を設定した。発表することに対して苦手意識をもっている児童が多いため、調べた内容を広めることで、自己有用感を高めることにも期待する。

令和4年度に実施した6年生は、これまでの学校生活を振り返り、感謝の気持ちから人のために活動したいという想いがある。そこで、人の役に立つ活動をさせたいと考えた。学校内では、最高学年として、1年生のお手伝いや委員会、クラブ、縦割り活動でリーダーとして頑張っている姿が見られる。そのため、学校から外へ視野を広げ、地域のために活動し、自己有用感を感じさせたいと考え、本単元を設定した。

事前アンケートを実施し、「どんな情報収集の方法を知っていますか」という問いから、情報収集についての知識が本やインターネットなど、個人内での収集で終わってしまっている。児童は、多くの媒体から情報を集めることができていない。アンケートやインタビューを通して、活動的な情報収集を行う魅力やそこで生じた不足感を補うためのICTの活用を通して、情報収集についての知識・技能を身に付けさせ、この後の整理・分析、まとめ・表現が充実した活動となるようにしていく。

以上の点を踏まえて、「伝えたいという想いを大切に」することで、発表に対する苦手意識を改善し、自己有用感を高められる取り組みを行った。その際に、実生活・実社会の現状を考えた実践を行う。児童が設定した課題に主体的に向き合っており、答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見出したりすることができるよう身近な地域を題材として取り上げる。さらに、society5.0が謳われている実社会の現状から積極的にICTを探究的な学習の過程の中に取り入れていく。その際、直接体験を重視した情報収集をまず行い、必要に迫られた段階でICTを提案する。情報収集の充実により、「整理・分析」「まとめ・表現」に対する取組の重視を図る。

3 求める力の定義

「発信する喜び」を以下の①～③のように定義し、それぞれを①調べる力②伝える力③繋がる力として評価し、変容を見取る。

① 達成感を味わう（知識・技能）

活動的な情報収集を行うことで、回答してくれた協力者へ結果を反映した成果物を見せるという目的ができ、それを達成することで達成感を味わうことができる。

	知識	技能	探究的な学習の良さの理解
調べる力	課題に対する情報の集め方や整理・分析の仕方を知ることができる。	目的に合った情報収集の仕方を選択肢し、集めた情報を整理・分析することができる。	総合的な学習の時間に意欲的に取り組むことができる。

② 自信をもって発表できる（思考力・判断力・表現力等）

多様な情報収集の方法を知り、情報活用能力が向上することで、収集した多くの情報を反映した成果物を作成することができ、自信をもって発表できる。

	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
伝える力	実生活や情報収集した結果から、切実感のある課題を見出すことができる。	活動的な情報収集と ICT を活用した情報収集を組み合わせて、目的に合った情報収集の方法を選択することができる。	多様な情報収集の中から特徴を見つけたり、比較したりして考えることができる。	目に見えない地域の想いを工夫してまとめ、相手に伝えることができる。

③ 自己有用感が高まる（学びに向かう力・人間性等）

成果物を学級や他学年など学校内での発表で終わるのではなく、他校や地域など大勢の人へ発信し、反応を得ることで双方向でのやりとりが生まれ、地域のため、多くの人のための活動ができたという気持ちが芽生え、自己有用感が高まる。

	自己理解・主体性・協働性	他者理解	将来展望・社会参画
繋がる力	切実感をもち課題に取り組む、友だちと話し合ったり、協力したりし課題を解決することができる。	相手の気持ちを考えたり、自分と異なる考えを認めたりすることができる。	多様な地域人材と関わり、想いを発信することができる。

4 研究の目標

児童主体の探究的な学習の過程にすることで、実社会や実生活の中から問いを見だし、情報活用能力が向上することで、「整理・分析」、「まとめ・表現」の活動が充実し、発信する喜びを味わい、自己有用感を高めることができることを明らかにする。

5 研究仮説と手立て

【仮説】

探究的な学習過程の中で、相手意識をもたせ、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用することができれば、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりすることができ、発信する喜びを味わい、自己有用感を高めることができることを明らかにする。

【手立て】

(1) 全体計画の改善（補助資料①）

児童の実態、保護者の願い、地域の実態・願いを踏まえ、学校で定めた総合的な学習の時間の目標を設定した。また、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力も学年別に設定した。

(2) ICT 機器の適切かつ効果的な活用

デジタル技術・データの活用（補助資料②）

○情報の収集

Forms	集計がしやすくなり、グラフが自動作成されることから、割合の学習をしていない学年でもパーセンテージを用いた集計が可能になると考えた。
QR コード	活動的な情報収集では、学校内や家庭など近い範囲での情報収集しかできなかったが、QR コードを作成することで、不特定多数に回答してもらえ、多くの情報が収集可能になった。
インターネット	GIGA スクール構想により、一人一台タブレットが支給され、調べ学習が可能になった。

○整理・分析

Forms	集計がしやすくなり、グラフが自動作成されることから、割合の学習をしていない学年でもパーセンテージを用いた集計が可能になった。
テキストマイニング	パーセンテージだけではなく、文字の大きさに集計結果がわかり、どの学年でも視覚的に理解できた。

○発信

パワーポイント	相手意識をもって作成することで、めあてをもったプレゼンを作成し、発信できた。
ビデオエディター	発信する際に、受けてが見て楽しめるものを作成するために見て聞いて伝わるものを作成することができた。
Sway	より多くの人へ発信するために、作成した。その際、情報モラルについても自分事として捉えることもできた。

○情報活用ルーブリック（補助資料③）

みそら小学校6年生作成（大阪市立滝川小学校 Web サイト参照）

(3) 広がりのある地域人材の活用

四街道市役所の方に来校してもらい、切実感をもって取り組めるよう身近な地域に関わる題材を扱い、多様な地域人材を活用した。また、身近な地域を題材として設定することによって、「すぐに行ける・すぐに聞ける・すぐに会える」という利点があり、児童が探究的な学習の過程で新たな問いに出会った際に迅速に対応できるため、主体的な学習に繋げることができる。

一つの事柄について多様な人材から話を聞くことで、多面的な見方・考え方が広がり、自己の生き方を問うきっかけにもなる。

(今回の研究で連携した人材)

(4年生) NPO 法人竹研究所 自治会 見守り隊 自然観察会 市役所 シンガーソングライター

(6年生) 市役所 千葉敬愛高校ダンス部 NPO 法人ピース NPO 法人はちみつ ふるさと祭り

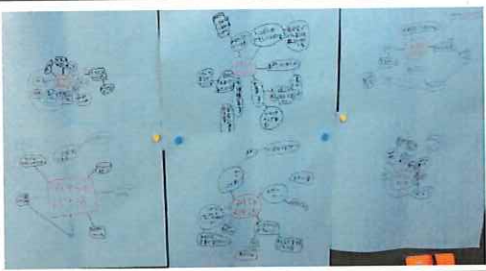

(4) 「考えるための技法」の活用

○各教科との関連

国語科	自分の思いや考えについてまとめ、広げること 構成の検討、考えの形成（小学校学習指導要領解説 国語 p29）
算数科	事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、 論理的、統一的、発展的に考える。
理科	「比較する」「多面的に考える」など理科の見方・考え方を働かせる活動が生きてきた。（小学校学習指導要領解説 理科 p13）
社会科	データの見方

○思考ツール

児童が考えを広め、整理・分析をする際に適切かつ確実に活用できるよう、思考ツールを絞って学習に取り組んだ。

ウェビング マップ	多面的に見る 多角的に見る	課題設定の際に、現在の知識を広めるために活用。	
座標軸	比較する 分類する 関連付ける	整理・分析の際に、情報を観点ごとに整理するために活用。	

PMI 表	多面的に見る	まとめ・表現の際に、更なる課題や改善点を見出すために活用。	P	M	I
	多角的に見る		・みそり祭りは、イラストや動画などで見やすくて◎ ・船は江戸の海に多く使われていた◎	・舟をあまり入れないで、入れるとしたら1つだけ入れてもいい◎	・説明してくれている人は必ず「入れていたんだねおもしろくて◎」
	理由付ける		・お祭り自体、小さい子供のしめ縄などにしていた◎ ・みそり祭りをどのくらいかき取りたいかを考えて入れていた◎	・それと対面もみんな入れたほうがいい◎	

(5) 振り返りの時間の確保 (補助資料④)

- ・作文用紙を使用した振り返り活動
- ・単元の最後に自己の変容を見取る作文の作成

(6) 発信した情報に対する返信や反応が得られる工夫 (補助資料⑤)

① Teams や Sway を活用した発信 (市内小中学校)

発信した内容について感想を聞くことで自分たちが作成したものにより地域の良さを他地域など多くの人へ広めることができたと感じ、達成感が生まれ、自己有用感が高まる。

② 市役所と連携をして、市内のお祭りに参画

市役所が取り組んでいる市のPRに携わることで、社会参画への意識が高まる。また、市内のお祭りのPRを行い、自分たちの成果物が市の施設に置かれたり、お祭りで飾られたりし、自分たちの学習が役に立っているところが目に見えることで達成感が生まれ、自己有用感が高まる。

6 実践事例

① 課題設定の工夫 (手立て1 手立て3)

実生活から切実感をもたせる課題を見出し、自分たちの町や市を「紹介したい」、「知らせたい」と思えるように仕掛け、より積極的に取り組めるようにする。また、子どもたちで話し合い、活動の方向性を自分たちで考えさせたい。

② 情報収集の工夫 (手立て2 手立て3)

情報収集を行う際には、活動の目的を意識させ、必要な情報を集めることができるようにする。本、アンケート、インターネット、インタビューなど多様な手段の中から目的に応じたものを選択する。また、アンケートを行う際には、「Google Forms」を活用し、アンケートを作成する。回答者へは、作成したアンケートをQRコード化して配布する。

③ 整理・分析の工夫 (手立て4)

高学年での思考ツール活用に向けて、簡単な思考ツールに触れさせていきたい。簡単な思考ツールを活用する中で、高学年になった時に、自分たちで効果的なツールを選択できるようになる素地を育てていきたい。これらを活用していくことで、自分たちの考えを生かした学習活動が展開されるよう支援していきたい。

④ まとめ・表現の工夫（手立て2 手立て6）

活動の最終場面で、自分たちが作成した内容を披露する場を設ける。外部への発信と評価により、自分たちの力でできたという達成感や地域のために作成できたという成就感を味わわせたい。



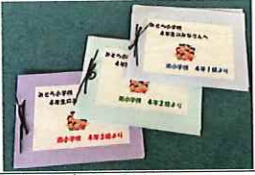
⑤ 自己のよさや学びのよさに気付かせる工夫（手立て5）

毎時間の終わりに必ず振り返りを行う。振り返りカードを用いて、毎回の振り返りを記録することで、自己の成長に気付かせる。また、振り返りを次時の導入に活用することで、前回の活動と思考を連続的なものにしていきたい。児童の記述に対して、担任からがんばりを認め、新たな気付きにつながるようなコメントを入れることで、自己有用感が高まり、学習が深まるようにしていく。



【4年生】

	ねらい・学習活動	調べる力	伝える力	繋がる力	評価方法
課題設定 (4)	○「ドラマチック四街道」を見て、みそらの町のどこが何秒出てきたのか分析し、みそらの町の映像が少ないことから、課題を意識させる。		①	①	・振り返りシート ・発言内容
	○数秒しか出ていないことから、もっとみそらを紹介したいという思いをもつ。 ○「テキストマイニング」を用いて、自分たちがどの程度みそらのよさを知っているのか視覚的に捉える。 ○ウェビングマップを用いて、みそらの町について深め、課題を設定する。	①			・振り返りシート ・発言内容
みそらのよさをたくさんの人へ広めよう。					
情報収集 (4)	○「ドラマチック四街道」を作成した市役所の方からお話を聞く。 ○商業施設等はないが、自然や地域の強い繋がりなど目に見えないよさがあることに気付く。 ○自然や人との関わりからでた良いところをまとめる。 ・みそら祭り ・旗ふり隊 ・赤い花と白い竹 ・御神木 ・南波佐間の森（ホテル） ○それぞれの知名度を測るためのアンケートや情報を知るため、情報収集の方法を検討する。 ・アンケート（Google Forms） ・インタビュー （自治会長さん、自然観察会、NPO 法人竹研究所、見守り隊） ○アンケートの調査対象を選定する。 ・みそら小の先生、児童 ・家族 ・地域の方 ○アンケートの作成やインタビューの練習を行う。	②	②		・振り返りシート ・発言内容

	○作成したアンケートの URL から QR コードを作成し、配布してアンケートを実施する。	②			・行動観察
整理・分析 (2)	○Google Forms でまとめられた資料から整理・分析を行う。 ○情報収集した結果を集計し、整理・分析する。 ・みそら祭り ・旗ふり隊 ・赤い花と白い竹 ・御神木 ・南波佐間の森 (ホテル)		③	②	・振り返りシート ・発言内容 ・行動観察
情報収集 (6)	○みそらのよいところをタブレットで撮影しに行く。 ○インタビューをしに行く。	③		③	・振り返りシート ・発言内容 ・行動観察
整理・分析 (1)	○撮影した写真の中で、1枚で伝わる写真を選ぶ。 	③	④		・振り返りシート ・発言内容
まとめ・表現 (3)	○みそらのよいところを伝えるプレゼン資料 (数枚のスライドショー) を作成する。 ○作成した資料を市役所の方に見てもらい、目に見えるものだけではない、人々の想いが詰まったみそらのよさを伝える。		④	③	・振り返りシート
課題再設定 (1)	○より多くの人へ伝えたいという思いをもつ。 ○動画作成の練習として、CM 作りを行うことを確認する。			③	・振り返りシート ・発言内容
情報収集 (1)	○実際の CM を見て、何秒で短くわかりやすいポイントを見つける。	②	②		・振り返りシート ・発言内容 ・行動観察
整理・分析 (3)	○実際に 30 秒程度の CM を作成し、グループごとに作成した CM を観点毎に内容を整理・分析していく。 ○広報のプロとして、学習協力者の市役所の方にアドバイスをもらう。 		②	②	・振り返りシート ・発言内容 ・行動観察

まとめ・表現(2)	○OCMを作成し、みそら小学校の児童に見てもらう。			③	・振り返りシート ・発言内容 ・行動観察
課題再設定(1)	○みそらのよさをみそらのことを知らない多くの方へ伝えるために動画を作成していく。「ふるさとの記憶」という四街道祭りをテーマにしている動画を見せ、イメージをもたせる。			③	・振り返りシート ・発言内容
情報収集(2)	○「ドラマチック四街道」「ふるさとの記憶」を作成した市役所の方に作成するポイントを聞く。 ○「キオクの空に」を作成した想いを聞く機会をもつ。 ○みそら祭りや見守り隊の方との思い出をアンケートで集める。 	①		①	・振り返りシート
整理・分析(2)	○ポイントを押さえて撮影を行う。 ・スライドショーに活用する写真 ○インタビューを行う。 ・インタビュー動画		③	②	・振り返りシート ・行動観察
まとめ・表現(9)	○撮影した動画や画像を編集する。 ・スライドショーのBGMとして、シンガーソングライターのゆうなみさんの楽曲「キオクの空に」を使用させてもらう。 			③	② ・振り返りシート ・発言内容
	○作成した動画をこれまで協力してくれた方々へ見せる。 ○Teams や Sway を活用して、他校の4年生へ配信し、みそらのよさを伝える。 			③	・振り返りシート ・発言内容
	○これまでの体験と自分が学んだことを振り返る。 ・作文			③	・振り返りシート ・発言内容

【6年生】

	ねらい・学習活動	調べる力	伝える力	繋がる力	評価方法
課題設定 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学校生活を振り返り、自分たちにとってなにがしたいのかを考えさせる。これまでの経験から設定していくことで課題を意識させる。 ○「周りの人、地域の役に立ちたい」という思いから、課題を設定する。 		①	①	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート ・発言内容
	<ul style="list-style-type: none"> ○四街道市役所が現在、四街道のPRに力を入れていることをインターネットなどから知る。 ○「ドラマチック四街道」や「四街道PRラップバトル」の映像を見て、四街道市のPRのお手伝いをさせてもらいたいという具体的な課題を設定する。 ○市役所の方に手紙を書き、自分たちにできることを聞く。 ○「ドラマチック四街道」を作成した市役所の方からお話を聞く。 ○「ふるさと祭り」のPRをしてもらいたいという話をもらう。 	①			<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート ・発言内容
様々な年代、多くの人に「ふるさと祭り」をPRするにはどうすればよいだろうか。					
情報収集 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ○「ふるさと祭り」についての概要を調べる。 ○「ふるさと祭り」の知名度や参加率を調べる。 ○アンケートの調査対象を選定する。 ・みそら小の先生、児童 ・家族 ・地域の方 ○アンケートの作成やインタビューの練習を行う。 	②	②		<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート ・発言内容 ・情報活用ルーブリック
	○作成したアンケートのURLからQRコードを作成し、配付してアンケートを実施する。	②			・行動観察
整理・分析 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ○Google Formsでまとめられた資料から整理・分析を行う。 ○情報収集した結果を集計し、整理・分析する。 		③	②	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート ・発言内容 ・行動観察
まとめ・表現 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ○「ふるさと祭り」のよいところを伝えるプレゼン資料(数枚のスライドショー)を作成する。 ○作成した資料を市役所の方に見てもらう。 		④	③	・振り返りシート
課題再設定 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでに調べたものをどのようにしたら、様々な年代、多くの人に伝えることができるのかを考える。 ○考えた内容から、作成するものを決める。 ・ポスター、パンフレット、動画等 			③	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート ・発言内容

情報収集 (4)	○作成物に入れる情報をアンケートやインタビュー、インターネットなどを通じて収集する。	②	②	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート ・発言内容 ・行動観察 ・情報活用ルーブリック
整理・分析 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ○実際に集まった情報を思考ツールを用いて、分類分けを行う。 ○整理した情報から班ごとに広告物を作成する。 ○他の班が作成した広告物が「様々な年代、多くの人」に伝わるものか整理・分析を行う。 ○広報のプロとして、学習協力者の市役所の方にアドバイスをもらう。 		②	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート ・発言内容 ・行動観察
まとめ・表現 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ○情報をもとに広告物を作成する。 ○広報物を市役所の方に届け、公共施設などに置いてもらう。 ○ふるさと祭りが終わった後に、市役所の方を招き、当日の様子を聞く。 ○作文を書き、自己の変容を捉える。 		③	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート ・発言内容 ・行動観察

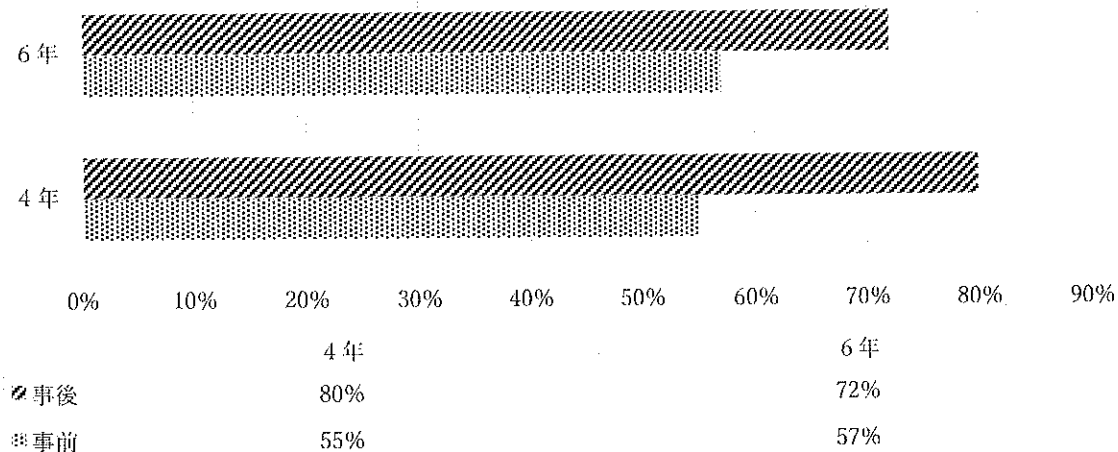


7 仮説の検証

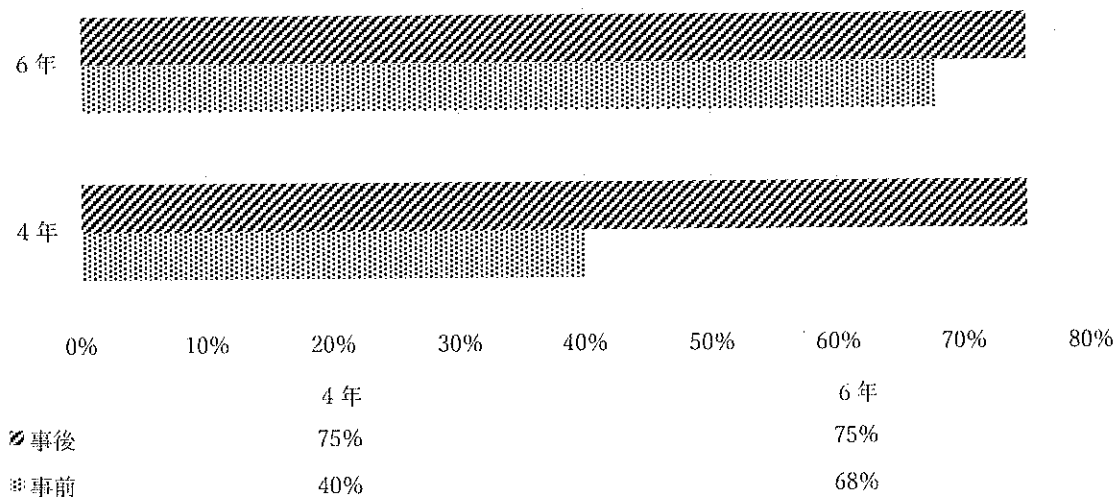
○量的検証 (アンケート・グラフ)

① 達成感を味わう「調べる力」(知識・技能)

あなたは、「整理・分析」をすることは得意ですか。



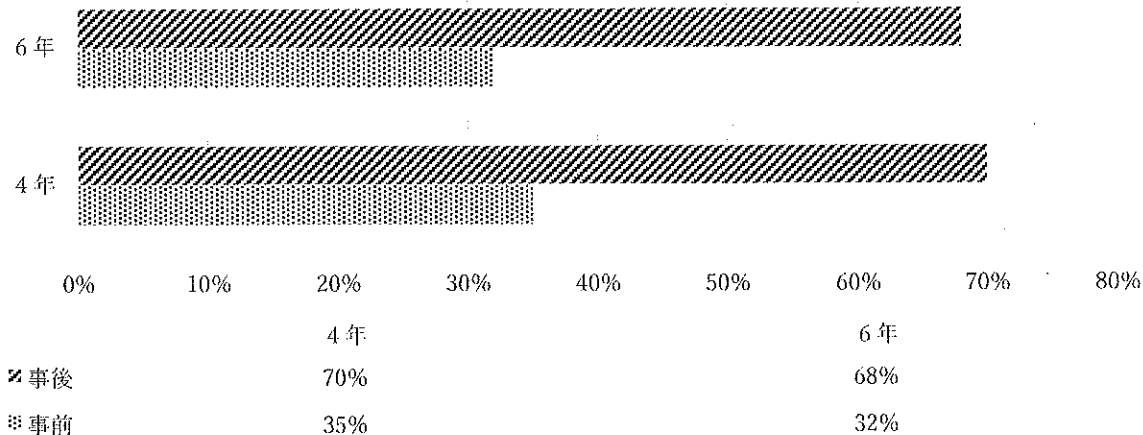
あなたは、何かしらの「課題」に対する情報を集めることは得意ですか。



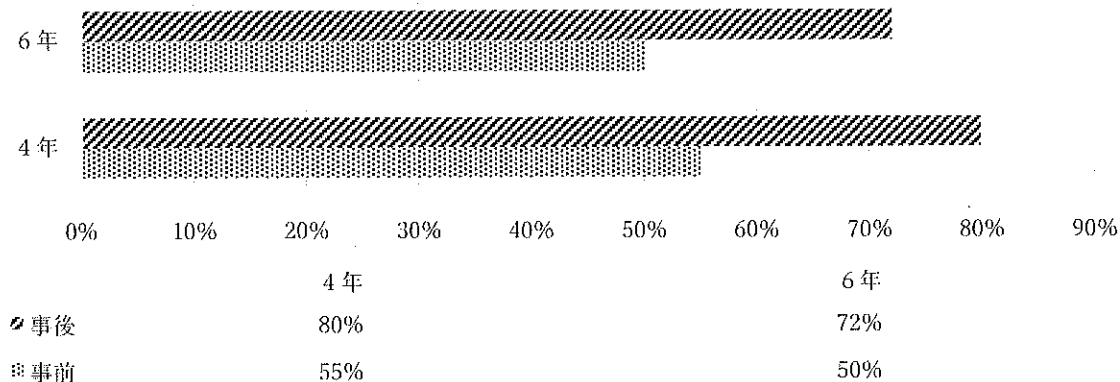
	事前	事後
あなたが知っている情報収集の方法を教えてください。	本、インターネットで調べる	本、インターネットで調べる アンケート、インタビュー 話を聞いてメモをする Google Forms

② 自信をもって発表できる「伝える力」(思考力・判断力・表現力等)

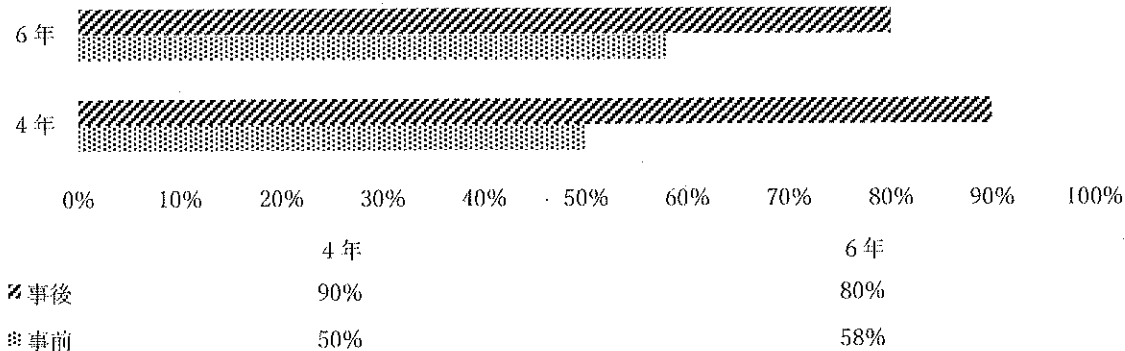
あなたは、調べてまとめたことをみんなの前で「発表」することは得意ですか。



あなたは、わかったことや考えたことを相手にわかりやすく話すことができますか。

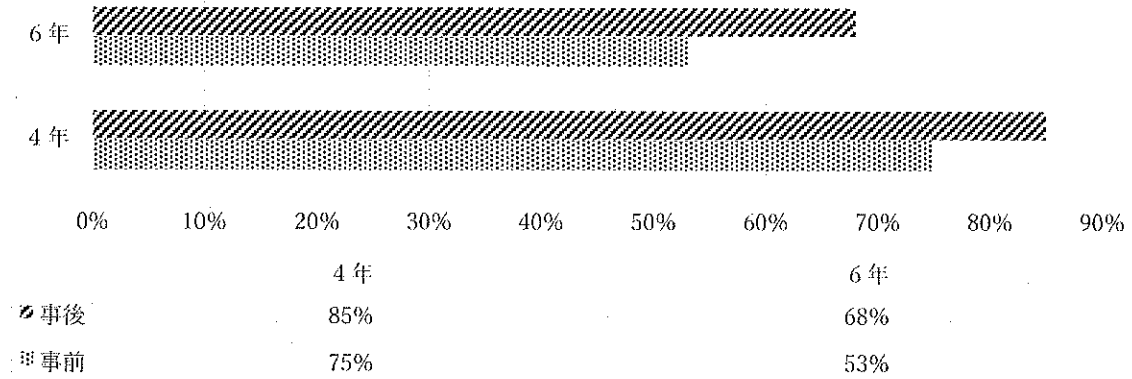


あなたは、わかったことや考えたことを工夫しながら書くことができますか。

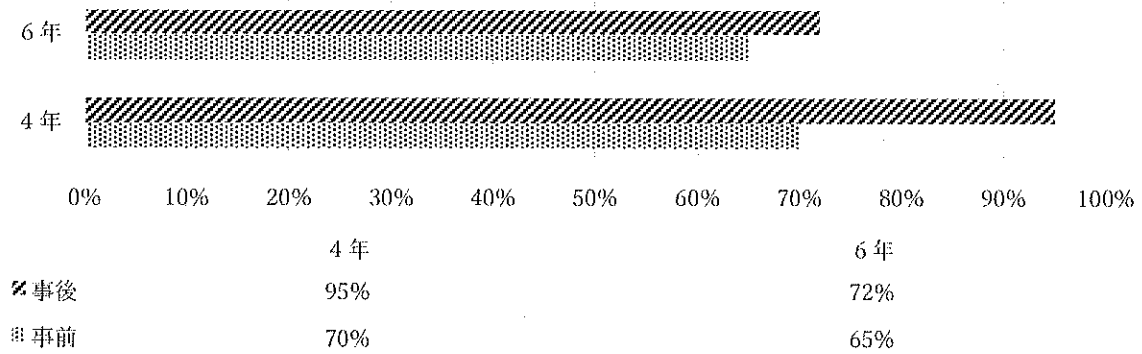


③ 自己有用感が高まる「繋がる力」(学びに向かう力 人間性)

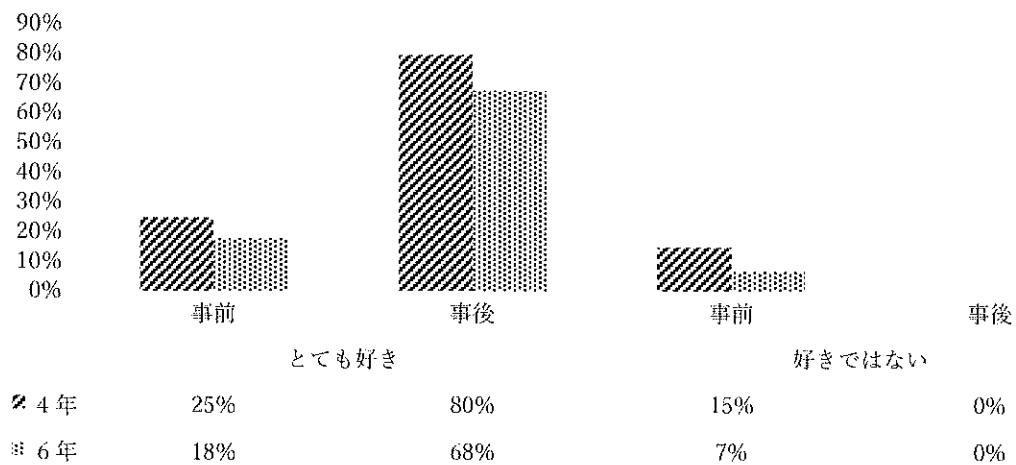
あなたは、自分から進んで活動することは得意ですか。



あなたは、学んだことを次の学習に生かすことができますか。



総合的な学習の時間が好きですか。



○質的検証（感想・情意面）

	4年	6年
達成感を 味わう 「調べる力」	<ul style="list-style-type: none"> ・みそらには、デパートやテーマパークはないけれど、人との繋がりがや思いが詰まった良さがあることがわかりました。見えない思いを伝えるのは、とても大変だったけど、楽しかったです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人のために調べることができるようになった。 ・見る人が求めている情報を客観的に見ようとする姿勢になれたことです。 ・様々な人との関わりが大切で、たくさんの人と関わることで新たな発見がたくさんできました。 ・みんなで協力することがとても楽しく感じて、最後まで諦めずにやり遂げられてとても嬉しいです！「人のために」活動することは大変で、責任があるけど、その分、成功すると嬉しくて達成感があります。この気持ちを改めて知ることができました。
自信をもって 発表できる 「伝える力」	<ul style="list-style-type: none"> ・発表することに自信がつけました。また、地域の大切さがわかりました。 ・私は発表することが苦手で前までは、全然発表する勇気がなくて発表できなかった。でも、総合の時間でみんなと調べて発表できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで一生懸命調べてまとめた情報を一枚のチラシに協力して作った。いろいろな人に見てもらえるのが心に残った。 ・ポスターを作ったり、大きい絵を描いたりみんなで協力することができてよかったです。また、四街道市の役に立ててよかったです。
自己有用感が 高まる 「繋がる力」	<ul style="list-style-type: none"> ・「きてみてみそら」をいろいろな人に見てもらって、コメントをいただいた時にうれしかった。四街道市以外の人にも知らせたいなと思いました。 ・他の学校の人にみそらを広められてよかった。いろいろな人への感謝の気持ちを学びました。 ・私たちはクラスの中でしか発表したことがありませんでした。だけど、他の学校にも見ってもらって、感想を書いてもらってとても嬉しかったです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と関わりたいと思えるようになった。 ・誰かのために自分ができることは、あいさつだけだったけど、今回の学習を通して今までの1、2人から四街道市民全員の役に立てる嬉しさを学びました。必ず努力は報われることと頑張って作ったことはたくさんの人が見ていること。 ・このテーマで学習する前は、人のためになにかしたいな。と思うことはあまりなかったけど、このテーマで学習してからもっと人のために何かしたい！と強く思うようになった。

8 結論

量的検証より

①～③ともにアンケートのパーセンテージが高まった。このことにより、児童が発信する喜びを味わうことができたと言える。

質的検証より

情報収集により多くの情報を入手することができ、回答してくれた方への感謝の想いや発信した後の感想をもらった経験から達成感を味わうことができたと言える。「発表することに自信がついた。」という意見が多くあり、「いろいろな人に見てもらえるのが心に残った。」など自信をもって発表することができた。「四街道市民全員の役に立てる嬉しさを学びました。」など多くの方のために活動した思いや他校に地域の魅力を伝えることができたという感想から、自己有用感が高まったと言える。なにより、「総合的な学習の時間が好きですか。」という問いに、「とても好き」が25%から80%になり、「好きではない」が15%から0%になったことで、課題へ前向きに取り組むことができていると言える。

量的・質的検証の結果から、達成感を味わい、自信をもって発表することができ、自己有用感が高まった。児童主体の探究的な学習の過程にすることで、実社会や実生活の中から問いを見出し、情報活用能力が向上することで、「整理・分析」、「まとめ・表現」の活動が充実し、発信する喜びを味わうことができた。

9 研究の成果と課題

【成果】

- ・情報活用ルーブリックを活用することで、情報活用能力の向上がわかり、意欲向上につながった。
- ・情報活用能力が向上したことで、「整理・分析」、「まとめ・表現」の活動が充実した。
- ・他校や市内全域といった学校外への発信を行ったことで、児童の目的意識が芽生え、自己有用感の高まりにつながった。

【課題】

- ・ICTの操作について個人差が大きく、ICT支援員と連携していく必要がある。
- ・ICTの活用として、動画編集ソフトやアンケートの作成するためにFormsを活用したが、操作する人が偏ってしまった。個々でもまとめていく力を高めていく手立てを考えていく。
- ・多様な地域人材への活用を行うために、学習の見通しや連絡・調整を行う必要がある。